

NAGASA SCHOOL GYMNASIUM

ENOMOTO ARCHITECTS co.,ltd.

建物名称：長狭学園屋内運動場

設計者：榎本 雅夫

事務所名：株式会社 榎本建築設計事務所

施工者：加藤工業株式会社

所在地：千葉県鴨川市宮山 176 番地

建物用途：小中学校（一貫校）屋内運動場

主体構造：S造

建築面積：屋内運動場 1,726.62 m² + 既存 3,938.90 m² = 5,665.52 m²延床面積：屋内運動場 1,497.91 m² + 既存 5,761.99 m² = 7,259.90 m²www.enomotosekkei.co.jp

text: HIROTAKE KAZATO

県内では初めての公立の小中一貫校であるこの長狭学園は、少子化や統合による影響、不登校や中一ギャップ等の諸問題を受けながら、平成21年4月、さくらの咲く頃小学生棟が完成し、ここに新たな歴史の1頁をあゆみはじめたのである。今回の計画は、その学園の屋内運動場の耐震化に伴う建て替え計画である。

雨の流れる曲線を描く屋根



サブアリーナとメインアリーナ



この建築の最大の特長は、屋根の雨水処理と採光の確保の仕方にある。雨樋は永年の自然環境を考慮すべしなほうが良い。そこでこの建築では、雨水が地上部分まで樋を設けずに自然に流れるように考えられている。それがこの建築の外観の特長の『流れる曲線を描く屋根』となって表現されている。そしてもう一つ、内部への採光の確保の仕方については、アリーナに於ける直接採光はスポーツのシーンとしてはあまり好まれるものではないが、自然採光による照度の確保はE C Oの観点から考えても必要不可欠なものである。しかし、ただ開口部を確保しても眩しくて競技に影響を与えてしまう。この相反するものをこの建築では十分な間接光により、けして眩しくない『光で満たされた柔らかな空間』として提案している。あくまでも1階部分は通風を第一に考え全面開口とし、カーテンによるグレア（眩しさ）調整がし易い環境を生み出しながら、グレア上の問題の出やすい2階、3階部分の開口部をギャラリーの手摺りの反射による柔らかな間接光として扱っている。

ギャラリーの手摺の反射による柔らかな間接光

